

第5回 知的障がい者日韓スポーツ交流プログラム

【実施報告書】



2026 年 9 月

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会

ANISA
All Nippon ID Sport Association

はじめに

「知的障がい者日韓スポーツ交流プログラム（以下「同プログラム」）」は、2015年9月に南米エクアドルで開催された第4回 INAS グローバルゲームス（知的障がい者アスリートの国際大会）を契機として始まりました。同大会には、日本からバスケットボール、フットサル、卓球、陸上競技、水泳の5競技団体が参加し、韓国選手団との交流を通じて、今後のアジア地域における知的障がい者スポーツの発展に向け、日本と韓国が相互に協力していく方針を確認しました。この合意を礎として同プログラムが実施され、今回で5回目を迎えます。

そして今回は、韓国釜山市にある釜山南区国民体育センター（第2体育館）を会場とし、「バドミントン」と「テコンドー（プムセ）」の2競技が行われる運びとなりました。日本と韓国の選手同士が競技で切磋琢磨し、競技外では積極的に交流を図る等、選手にとって大変思い出深いプログラムになることが予測されました。また、多くの日本人選手にとって今回は初めての海外遠征であり、競技内外における他者との交流に加え、普段とは異なる環境となり、自己管理面だけを見ても、選手個々の慣習を少しでも広げられる可能性を秘めた、大変有意義な機会になることが期待されました。

同プログラムは草の根的活動を重要視しており、日本政府が進める Sport for Tomorrow の精神に準拠したスポーツ国際貢献事業です。特に戦略的パートナーシップを結んだ両国は、不断の努力によってこれを保持し、スポーツを通じた知的障がい者スポーツの普及・発展に寄与する事はもとより、最も友好な隣国として、知的障がい者スポーツの価値を高める活動として同プログラムを位置付けております。

同時に、このような草の根的活動は、より競技性の高い国際大会参入への足がかりともなるでしょう。例えば、今回実施しておりますバドミントンは、2022年のOA（オセアニア・アジア）大会*および2027年のAO（アジア・オセアニア）大会*のデモンストレーション競技として採用されるなど、同プログラムにおける実績が大いに役立っております。

さらに、競技種目によっては、将来的にパラリンピックに通じる可能性もあるのです。日本側の同プログラム主催者である（一社）全日本知的障がい者スポーツ協会（AN i SA）は、時間をかけ様々な国内競技団体と協力関係を結び、団体のご理解とご協力の基に、今後も、このような機会の創出に努める所存でございます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

最後に、今回は、在釜山日本国総領事館への表敬訪問や釜山日本人学校における児童生徒との交流など、多くの日本人関係者からご理解・ご協力をいただきました。同時に、SNSを通して訪問の様子や同プログラムの実態を拡散・宣伝していただき大変ありがたく思います。皆様のご協力のお陰で、国内の枠組みを超えた貢献ができたのではと考えております。関係者の皆様には、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

*開催地によってAとOの順番が前後する。

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会
理事 谷口 広明

【1】 日程

	日付	予定	滞在ホテル & 食事
1	9/4 (金)	<移動日> 12:45 成田国際空港 (NRT) 発 14:55 金海国際空港 (PUS) 着 (KE2130) 14:55-16:00 入国手続き 16:00-17:00 バス移動 17:00-18:00 在釜山日本国総領事館 表敬訪問 18:00-18:30 バス移動 18:30 ホテルチェックイン 19:00 夕食@ホテル近隣レストラン	グランド・モーメント・ユースホテル (Grand Moment Youth Hostel) https://www.grandmoment.co.kr/content/info_en 昼食@機内 夕食@韓国料理店
2	9/5 (土)	<交流試合日> ★競技会場：釜山南区国民体育センター（第2体育館） https://maps.app.goo.gl/ruTnPf9HiSuj31Hq5 8:00-8:30 バス移動 9:30-10:00 開会式 & 祝賀パフォーマンス AM(10:00-11:30)：競技毎の日韓合同練習 PM(13:00-16:00)：交流試合 16:00 バス移動 17:00 晚餐会@ホテル	朝食@ホテル 昼食@競技会場 夕食（公式晚餐会）@ホテル
3	9/6 (日)	<文化的活動、現地観光日> AM(09:00-12:30)：国立博物館, 釜山中心街及び展望台, 海東龍宮寺 12:00 昼食@中心街 PM(13:00-19:00)：中心街散策 19:00 夕食@中心街	朝食@ホテル 昼食@中心街 夕食@中心街
4	9/7 (月)	<移動日> 9:00-10:00 ホテルチェックアウト、バス移動 10:00-12:00 釜山日本人学校訪問、競技毎パフォーマンス披露&交流 およびゴルフ松本さんによる授業（ショートパージョン） 12:00-13:00 バス移動 13:00-16:00 金海国際空港着、昼食 & 出国手続き 16:00 金海国際空港 (PUS) 発 18:15成田国際空港 (NRT) 着 (KE2131)	軽朝食@ホテル各部屋 昼食@空港 & 機内

【2】参加者

選手団	競技	選手	スタッフ	備考
日本	バドミントン	男子 3 名、女子 3 名	2 名	日本パラバドミントン連盟他
	テコンドー（プムセ）	男子 2 名	1 名	全日本テコンドー協会
韓国	バドミントン	男子 3 名、女子 3 名	1 名	
	テコンドー	男子 2 名	1 名	
招待（日本＋韓国）		9 名		ANISA 本部 3 名 SOK 名誉職 6 名
現地運営本部（韓国）		8 名		SOK スタッフ 5 名、通訳 3 名
合計		38 名		

【3】 各競技団体の報告（2 競技団体）

<バドミントン（報告者：田中 信行コーチ）>



① 実施した交流プログラム内容

- ・ 韓国人選手 男子3名 女子3名（コーチ男女各1名）
- ・ 日本人選手 男子3名 女子3名（コーチ男女各1名）
- ・ 通訳 1名

【午前 10:30～12:00】

ストレッチ・体操・ランニング・フットワーク練習

基礎的なショットの練習（基礎打ち）

整理運動（ストレッチ）

【午後 13:00～15:30】

ストレッチ・ランニング

男女別の韓国人選手VS日本人選手の21点1ゲームでの練習（シングルス・ダブルス）

韓国人選手VS日本人選手の混合ダブルス21点1ゲームでの練習

韓国人選手と日本人選手がペアを組む男女別ダブルス21点1ゲームでの練習

整理運動（ストレッチ）

※コート数3コート

②得られた成果

日本代表メンバーの殆どの選手が初の海外ということによる緊張感や、初めて使用する韓国製のシャトルということで、ゲーム練習などではなかなかコントロールが定まらなかったり動きが硬かったりしました。また体育館の照明の配置、天井の高さなどに若干難がありプレーしにくい環境であったと感じました。しかし国際大会などにおいては初めての会場でプレーをしなくてはならず、また初めて見るシャトルを使用する事もあるので、そのようなシーンでもプレーをコントロールしなくてはならないということを体感出来たということは、選手たちにとって良い経験であったと思います。

練習内容においては韓国側の女性コーチが組み立ててくれており、基本的にはその内容をトレースするように実施しました。ゲーム練習のペア決めや対戦相手決めについても、韓国・日本の各コーチの話し合いにより決定して実施しました。

交流練習終了後は仲良くなった日韓両国の選手同士・また日本人女子選手と韓国女性コーチが連絡先を交

換するなど、日韓の交流として素晴らしい成果を上げることが出来たと思います。

③全体を通じて

今回は日韓双方のコーチ間においてその場で当日の練習内容を決めなくてはなりませんでした。韓国側の女性コーチは普段から障がい者バドミントンを指導されている方であった為、午前中の段取りをしっかりと考えていてくれて助かりました。選手たちにおいては普段フットワーク練習などすることは殆どない人ばかりなので、午前中の練習で既に疲れてしまった選手もいました。

ゲーム練習では高いレベルで白熱したゲームが展開され、ギャラリーの拍手や応援、声掛けなどにより盛り上がりを見せました。また今回の韓国人男子選手のプレーはレベルが高く、日本人選手たちはまだ世界には強い人がたくさんいる！ということが実感できたと言ってました。帰国してから、一層練習に励んでくれることと思います。

④今後の課題や展望

今回午後のゲーム練習において日本人女子選手1名が足に張りを訴え、ゲーム練習途中で離脱しました。そのような場合残った選手たちの負担が大きくなってしまいうちも考えられるので、選出される選手の数はいくつ多くても良いのかな？と感じました。知的障がい者のバドミントン競技においては、まだ正式な国際大会がありませんが、そのような中で今回のような体験が出来たことはまさしく競技力向上に繋がったと思います。また競技以外の場でも普段から仲の良い選手たちですが、今回の派遣を受け男子も女子も更に友情が強まったと思います。男子選手については、ホテル自室などの様子でも常にリラックスして各々楽しく過ごしていました。今後は他競技の選手間でももっと交流の場（ホテルの部屋を同室にするなど）があっても良いのではないかと感じました。

今回は日本の知的障がいバドミントン選手の為にこのような貴重な機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

⑤女子サポートコーチの報告

<女子選手のサポート（報告者：高橋 美穂コーチ兼 AN i SA アンバサダー）>

1. 帯同概要

本プログラムに女子バドミントンコーチとして帯同し、女子3選手の競技技術以外の滞在生活全般を担当した。3選手は障害の程度や苦手・不得意な点がそれぞれ異なる一方、食事、身支度、シャワーなどの日常行動に時間を要する点が共通していた。3人同室であったため、個々のペースや体調に配慮しながら、時間管理と声かけを行った。

2. 今後に向けての課題と改善策

- 事前確認：私自身、帯同前に選手や家族へのヒアリングの必要性をより積極的に申し出るべきだった。アレルギー、服用薬、生活上の配慮事項、女子選手特有の体調変化、支援の優先度を事前に確認し、自ら整理して関係者と共有する姿勢が必要だった。
- 支援体制の把握：帯同家族がいるという情報だけで負担が軽減されると考えず、誰の家族が帯同し、どこまで支援が可能なのかを私自身が事前に確認しておくべきだった。支援の優先順位や役割分担を把握しないま

ま現地に入ったことで、対応に迷う場面が生じた。

● 情報共有の場の設定：選手団全体のサポートを円滑にし、コーチおよび本部メンバーの協力体制を強化するため、1日1回の短時間の打ち合わせを組織的に設定することを提案したい。その日の選手の体調変化、支援状況、翌日の行動予定、注意事項を共有することで、選手団全体の状況を把握しやすくなり、必要なサポートを相互に補完できる体制につながると考える。

● お土産購入に関する事前案内：本プログラムは観光を主目的とするものではなく、行程や選手の状況によっては、お土産を購入する時間や機会を確保できない場合も想定される。そのため、今後は選手に過度なお土産購入リストを持たせることは避けていただき、必要な場合には購入の可否や支援方法を事前に確認しておくことが望ましい。

3. 所感

今回の帯同では、事前確認や情報共有の面で課題が残り、私自身、より積極的にヒアリングを働きかけるべきだったと振り返っている。一方で、本部役員や他のコーチの支援と連携により、大きなけがや体調不良、事故もなく、3選手を無事に帰国させることができた。また、選手から「楽しかった」との言葉や感謝の声を聞くことができ、安心するとともに、帯同の意義を実感した。選手一人ひとりに必要な支援が異なることを学び、知的障がいのあるアスリートへの理解も深まった。このような貴重な機会をいただいた全日本知的障がい者スポーツ協会をはじめ、本プログラムの実施にご尽力いただいた関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今回得た学びを、今後の安全で質の高いサポート体制づくりと、選手が安心して競技に取り組める環境の整備に活かしていきたい。

⑥各選手の報告

(1) 田中 和弥選手

「今回、初めて知的障害の日本代表として、韓国の釜山で、日韓交流戦を行いました。私は今回、日本代表チームのキャプテンを務めることになりました。初めは、「自分がキャプテンで大丈夫なのか」と不安な気持ちもありました。でも、チームメイトやスタッフの皆さんが支えてくださり、最後までキャプテンとしての務めを果たすことが出来ました。韓国のバドミントンチームは、かなりレベルが高く、私達のチームよりも遥かに上でした。この日韓交流戦で私達選手一同は、素晴らしい経験を得られました。バドミントンだけでなく、釜山で観光し、美味しいものをたくさん食べて、リフレッシュしました。今回の経験を活かして、また次の試合に向けて頑張っていきたいと思います。」

(2) 中野 林太郎選手

「私は2022年の11月にオーストラリアへ行きアジアオセアニアゲームスに参加して初めて優勝しました。今回は2回目の海外遠征で韓国の釜山へ行きました。私は今回知的障害、全国大会で戦っているメンバー6人とテコンドーの選手の方々と日韓交流に参加しました。

韓国のバドミントンの選手は練習を始める前に基本的な体操、ランニング、フットワークをして身体を作って試合をしていました。自分たちは軽く体操をしてから基礎打ちと試合をしているので普段動かしていない筋肉を動かしたので大変疲れました。

そして試合では No1、2、3 の選手たちと戦いました。選手たちはどんな戦いをするのかなと気になっていざ

戦ったらすごく強く、ラインギリギリの所を正確に攻撃してきたので驚きました。
この戦いで自分も更に腕を磨いて最高に良い戦いが出来るようになりたいなと思いました。
海を越えて新たな交流を深めることが出来てすごく嬉しかったです。」

（３）佐藤 健太選手

「初めての韓国の釜山にいき韓国の選手と親善試合をしました。おもにシングルスで韓国と勝負して韓国選手はレシーブがうまくスマッシュもはやく強かったです。 また韓国選手とペアをくんでダブルスをやり、試合ですが楽しく韓国の選手と交流を深め、いい思い出になりました。
バドミントン日韓交流戦で訪れた釜山では、試合だけでなく食文化も楽しむことができました。特にチルソンで食べた鯛の刺身盛り合わせは、新鮮で身が引き締まっており、とても美味しかったです。仲間と会話を楽しみながら食べることで、韓国の食文化にも触れられ、交流を深める素敵な時間になりました
今回の交流を通して、技術だけでなく友情も深まりました。
4日間ありがとうございました。」

（４）内田 典子選手

「今回、初めて海外で海外選手との大会に参加し、最初はとても緊張しました。シングルス・ダブルス・混合ダブルスに出場し、緊張しながらも自分の思うプレーを出すことができ、嬉しかったです。観光では、いろいろな景色や空気に触れ、韓国の料理もたくさん食べることができ、とても楽しい思い出になりました。」

（５）花澤 杏奈選手

「私は初めて日本代表に選ばれて初めての海外でした。
飛行機に乗るのも不安で緊張していたのですが皆々さんに助けてもらいながら4日間楽しく過ごす事ができました。普通の人じゃ行くことの出来ない在釜山日本総領事館、代表じゃなければ参加出来ない公式晩餐会、釜山日本人学校に行って子供達との交流、色々なことを体験させて頂き弱い自分を少し成長させて強くしてもらえたと思います。バドミントン交流会では韓国代表と練習、試合をする事が出来て良い経験になりました。これからもバドミントンを頑張ります。もっともっと練習してまた代表に選ばれたいと思いました。
緊張しましたが楽しかったです。本当にありがとうございました。」

（６）千葉すず選手

「1日目

釜山日本総領事館に挨拶に行きとても緊張しました。
夜は本場の焼き肉で、みんなで盛り上がりながら食べられ美味しかったです。

2日目

午前は小さい頃からやっているトレーニングと同じだったので、いつも通りやれてよかったです。
ラインタッチと指示あり4点フットワークでは日本のコーチおそわってきていることを意識してやりました。
韓国のコーチにも Good と言われました。基本練習の時は言葉がうまく伝わらなく大変でした。
午後はゲーム練習をやりました。

※シングルス

- ・良かった点⇒コート内で足がよく動き、クロスヘアピンが調子が良かったです。
- ・悪かった点⇒自分のミスで点数をあげてしまったので悔しかったです。

※女子ダブルス

- ・良かった点⇒内田さんと初めて組んで、1ゲーム目は少しぎこちなかったけど、アドバイスをもらって2ゲーム目は巧く連携が取れて点数が取れました。もっとやりたかったです。

※ミックスダブルス

- ・良かった点⇒和弥君にスマッシュを打ってもらってチャンス狙う意識をした。
- ・悪かった点⇒和弥君が作ってくれたそのチャンスをミスってしまい悔しかったです。

※韓国選手との交流ダブルス

- ・良かった点⇒手を出したらハイタッチをして笑いながらゲームが出来ました。
- ・悪かった点⇒言葉が通じないためローテーションが出来なくて大変でした。

韓国のコーチに自分から翻訳アプリを使ってお話出来たのがうれしかったです。お団子ヘアの選手とも仲良く出来てうれしかったです。

3日目

韓国の歴史を勉強しました。難しかったです。

高橋さんとお買い物では自分で韓国のお金で買い物をしました。日本のお金だといくらなのか？分かりませんでした。

生活面

良かった点⇒いつもの遠征通り、睡眠も取れたし、ご飯もたくさん食べれました。

悪かった点⇒時間に余裕を持った行動が出来ないときがありました。次の日の準備があまかったです。

今後の課題

バドミントンではミスを減らす練習ともっとスペシャルショットを持つことです。

より、いいパフォーマンスが出せるような自己管理が出来るように意識します。

良い経験をさせていただきありがとうございました。必ずこの経験を生かします。



<テコンドー（報告者：森 顕コーチ）>



①実施した交流プログラム内容

- ・韓国チーム 選手 2 名、コーチ 1 名、通訳 1 名
- ・日本チーム 選手 2 名、コーチ 1 名

■9/4（金）

【午前】成田空港集合、チェックイン、搭乗

【午後】金海国際空港到着、入国

釜山日本国総領事館表敬訪問、テコンドー演武披露

■9/5（土）

【午前】選手登録、開会式、オープニングセレモニー

日韓チーム合同練習

【午後】交流試合

日韓チーム合同練習

フォトセッション

【夜間】公式晩餐会

■9/6（日）

【午前】日帝強制動員歴史館 見学

海雲台ビーチ散策

【午後】BUSAN X the SKY 見学

海東龍宮寺 見学

■9/7（月）

【午前】釜山日本人学校訪問 バドミントン、テコンドーデモンストレーション

【午後】金海国際空港出発⇒帰国

② 得られた成果

韓国チームから 2 名、日本チームから 2 名の選手を出し合っの交流プログラムでしたが、はじめお互いに緊張はあったものの、一緒に練習をして双方でペアを組んでトレーニングをするなかで次第に打ち解けて

いくことができました。交流試合とはいえ、また韓国側の配慮もあって、プムセの得点は日本の2選手が上位になるかたちではありましたが、選手本人たちは海外でも評価を得たことに自信をつけたものと思います。

初めて海外に渡航した選手もありましたが、テコンドーの本場韓国で練習し、試合を経験したことで国際的な感覚も醸成されたものと思います。近い将来彼らが再び国際大会のコートに立つことを期待したいところです。

国立日帝強制動員歴史館の見学の機会が設定されていた点はとても重要だと思います。参加した選手たちがどの程度記憶に留めたかはそれぞれ異なるかもしれませんが、過去の歴史のなかで日本が韓国に対して行なった行動を学び、それを踏まえたうえでの日韓交流でなくてはならないと思います。

③全体を通じて（まとめ）

全体を通じて、韓国側の準備が際立ったプログラムだったと感じます。ましてテコンドー競技のほうは国技ゆえ豊富な指導者人材があり、合同練習も円滑に進めていただきました。韓国側のスペシャルオリンピックスタッフの動きも迅速で、日本語も流暢ですし、次の行動予定を見つつアナウンスをしているあたりは、私どもも大いに学ぶことがあると思います。

ホテルの設備は素晴らしかったのですが、ロケーションが山の上にあり、近くにコンビニがないのは日本チームにとってはやや不便と感じられたかもしれません。朝食のビュッフェは素晴らしかったと思います。

今回は釜山での開催で、テコンドーの本場であることは間違いなしとしまして、日帝強制動員歴史館があり海雲台ビーチがあり、海鮮料理があり、海東龍宮寺があり、見どころいっぱいのあるコースを選定していただき韓国チームには感謝の気持ちでいっぱいです。

日本チームとして今回得られた経験を活かして、もしもまた韓国と交流する機会があったときには韓国側をしっかりとおもてなしができるようにテコンドーの技を磨き、パラプムセの裾野を広げて、今回は2名対2名でしたけれども、近い将来4対4、5対5へと交流が発展していけるよう努力してまいります。

④今後の課題や展望

このような素晴らしいイベントがあることを国内のテコンドー界に共有することが最優先だと思います。

これは選手というより帯同したコーチが協会へしっかり報告するとともに、情報発信をすることだと感じました。テコンドー界でVirtusを取得する選手がさらに増え、国内で複数の選手の中から選考したという建付けにしていきたいところです。

韓国のコーチはたまたま存じている優秀なコーチで、お蔭で合同練習もスムーズに執り行うことができました。

課題があるとすれば、特に今回の9/5（土）のスケジュールは、交流プログラムとは聞いていたものの、両国のコーチとも具体的にどう行動するか説明は受けておらず、試合も1サイクルだけでしたので、もう少し両国間で打ち合わせをして、横でやっていたバドミントンと比較した場合、テコンドーももっと試合が多くてよかったのではいかと考えます。

最後となりますが、日本のテコンドーにこのような貴重な機会を与えて頂きましてありがとうございました。ANiSA並びに関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、この経験を今後の活動に活かしていきたいと思います。

⑤各選手及びコーチの報告

■選手：菱田明空（みのだはる）

「今回はこのような機会を設けていただきありがとうございました。韓国のテコンドーチームとの練習や試合は緊張せず、どちらかというとも楽しむことができました。ゴルゴ松本さんの応援も大変励みになりました。さらに練習を積んでうまくなって、機会があったらまたチャレンジしたいです。準備をしていただいた ANiSA と韓国の関係者の皆様、ありがとうございました。」

■選手：窪田英司（くぼたえいじ）

「韓国のテコンドーチームとの交流や試合は楽しむことができました。そのほかに自然と文化を体験してとても楽しむことができました。これからさらにテコンドーの練習を積んで、また個人的にも韓国へ行きたいと思います。準備をしていただいた ANiSA と、韓国の関係者の方々に心から感謝いたします。」

■コーチ：森 顕（もりけん）

「このたびはテコンドー競技・パラプムセにこのような機会を与えていただきありがとうございました。選手たちは渡航の際に少し緊張していたようですが、晩餐会など食事を交えて会話が增えるにつれリラックスしていけたように思います。テコンドー交流では韓国チームと一緒に練習してコミュニケーションを取り、試合を行なってもらい、韓国のコーチからのご指導をいただいて貴重なひと時を過ごすことができました。この経験を機に選手たちに国際感覚が芽生え、より大きな国際大会にもチャレンジする意識が育ってくれたらと思います。」

また、日帝強動員資料館の見学をプログラムに入れていただいた点は大変有意義でした。日韓交流の入り口として、過去に日本が韓国の人民に対してどのような行為を行なったのか、それを踏まえたうえで互いの交流を継続して行なっていくことが大切だと感じました。」





【4】 本部報告

<アンバサダー（報告者：ゴルゴ 松本氏）>

今回特別アンバサダーとして、同プログラムへ帯同させていただきました。誠にありがとう御座いました。斎藤会長の下、成田空港集合時が日本代表選手みなさんに初めてお会いしました。笑顔で挨拶を交わし、結団式もスムーズに進んで、いざ韓国釜山へ！

選手のみなさんは、ワクワクとドキドキ、期待と不安を感じながらのフライトだったと思います。其々のコーチの方々がしっかりサポートしていたので安心はありました。

到着後、在釜山日本総領事館へ訪問！！

海外遠征が初めての選手もいて、旅の疲れは無いか見ていましたが、夕食の食べっぷりを見て全員大丈夫だと感じました。食欲があればOKです！

そして交流2日目、スポーツ交流本番でした。

選手のみなさんは朝から食欲旺盛!!後のことを考えたら、食べ過ぎては?!と感じる位、食べてました。いざ会場へ少しの緊張感がある中、開会式、交流アップ練習、試合へ言葉の壁はあったと思いますが、お互いのスポーツを通して、一緒に汗を流し、全力でプレイをしてる姿は、心打たれるものがありました。スポーツに国境はありません！

私は今回人生初めて、知的障がい者スポーツを観ました。百聞は一見に如かずで、凄く勉強になりました。選手一人一人が日頃から、たくさんのサポートを受けながら努力と準備をくりかえし今日まで成長して来たんだと感じる事が出来ました。試合を終えた両国の選手団の皆さんの笑顔がスポーツのチカラで平和を!!未来への成長を!!物語っていた様に思います。

そして、3日目4日目まで

韓国釜山の協会皆様の素晴らしいスペシャルサポートのお蔭で食事から移動、観光を楽しむ事も出来ました。カムサムニダ～感謝感激～ありがとう御座いました！

今回の経験を活かして、知的障がい者スポーツと ANiSA の更なる発展に協力して行きたいと思います!!カムサムニダ～

<副団長（報告者：谷口 広明氏）>

選手及び本部役員並びにご家族の皆様大変お疲れ様でした。

初日に成田国際空港出発ロビーの端っこで団結式が行われましたが、選手代表田中和弥選手の挨拶に感銘を受けました。精一杯競技を行うことは勿論のこと、競争相手を敬い他者と親交を深めるために来た、との趣旨の内容でした。そして実際の交流試合日の日韓合同練習の場面では、それぞれの選手が初見の韓国人選手とペアを組みダブルスの練習を行う設定がありましたが、そこには何とも言えない美しさがありました。お互い言葉が通じない中で、ハイタッチや「ごめん」のジェスチャーを通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が非常に印象的で、競技を通して相手を敬い親交を深めている様子がうかがえました。

テコンドーの2選手においてもバドミントン選手と共通する心持ちで参加していたようで、試合前後の日韓合同練習の場面においては、お互いの国のコーチが国を超えた選手を指導し、非言語的コミュニケーションの意図を汲んだ選手が、自己の精神と身体の一の基にそれを体現しようとする姿が随所に見られ、深い感銘を受けました。また、今回初めてテコンドー（プムセ）を拝見しましたが、選手の動きそのものに威厳や風格がまとい、とても感銘を受けました。

どの競技も試合には型（フォーマット）があり、それに従い試合は粛々と進められる印象がありますが、本事業の目玉はやはり試合前後の合同練習にあったと感じております。そこには普段とは異なる言葉、指導体制や指導方針、そして練習方法があり、慣れない環境における戸惑いや疑問を乗り越え、自分を適合させていく過程そのものに、本交流試合の意義を十分に感じ取ることができました。

今回、派遣選手中1名を除いた7名の選手にとって初めての海外遠征となったようで、選手にとっては大きな緊張やストレスがあったかと思います。空港カウンターのチェックインや出入国手続等、セキュリティー上一人で行わなければならない場面においてうまく事が運ばなかった様子が所々見受けられました。これは3泊4日の旅程の中のほんの一部に過ぎず、慣れない環境において失敗し、経験を通して次はクリアするといった適応が多くあったかと思います。競技の側面だけでは計りきれない経験や機会が本事業の至る所に散りばめられており、選手たちはそれを十二分に活かし切ったのではないのでしょうか。

初日などは適度な緊張状態があったのにも関わらず、そして初見にも関わらず選手が私どもスタッフに気軽に声をかけてくれた背景には、少なくとも今回の派遣スタッフの自然な凸凹さが影響していたと感じます。お笑い芸人のゴルゴ松本さんや元オリンピック選手の高橋美穂さんの思慮深く丁寧なご対応と、一方でとても気さくで話しかけやすい雰囲気、適度に適当な私と、締めるところはちゃんと締める斎藤団長やコーチ陣。このようなメリハリがチーム全体に波及し、選手にとって誰にでも話しかけやすい環境が整っていたのではないかと思います。ことコーチ陣に関しては、選手と対等で、常に真摯な姿勢で選手指導に当たる姿を拝見し、深い感動を覚えました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

最後に、本事業にご理解を示し選手をサポートしてくださったご家族の皆様、現地まで足を運んでくださったご家族の皆様に感謝申し上げますとともに、引き続き ANiSA 事業へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

その他活動の様子

		
結団式の様子 (写真1)	在釜山日本総領事館(集合写真) (写真1)	在釜山日本総領事館(演舞) (写真2)
		
1日目夕食の様子 (写真1)	1日目夕食の様子 (写真2)	2日目プログラム開会式 (写真1)
		
2日目会場の舞台の様子 (写真1)	2日目プレゼント交換の様子 (写真2)	2日目会場のランチの様子 (写真3)

		
2日目会場の様子(副団長) (写真4)	2日目公式晩餐会の様子 (写真1)	2日目公式晩餐会の様子 (写真2)
		
3日目市街地観光の様子(博物館) (写真1)	3日目市街地観光の様子 (写真2)	3日目市街地観光後夕食の様子 (写真1)
		
4日目釜山日本人学校集合写真 (写真1)	4日目釜山日本人学校の訪問の 様子(写真2)	我らがアンバサダー (写真1)

総括

「第5回 知的障がい者日韓スポーツ交流プログラム」は、韓国側から総勢24名（本部スタッフ：14名／コーチ・アスリート10名（バドミントン：7名、テコンドー：3名）、が対応して頂き、4日間の全日程を終えることができました。

前回同様に、両国とも大きなケガもなくすべての日程を終了でき、大変安心しております。特に、日本選手団の選手は、初めての海外渡航者が7名おり、身体的な状況（状態）だけでなく、精神的な状況も気にしながら活動してきましたが、いずれも大きなトラブルもなく、選手たちは、十分に実力を発揮できたのではないかと思います。

さて、今回の2競技はAN i SAとしても大きなチャレンジでもありました。AN i SAは中長期的な計画として、V i r t u sの公式競技への全ての競技派遣を掲げており、その一環として、両競技を韓国側と調整し今回の実現に至りました。

さて、韓国側は我々を釜山へ招待するにあたり、非常に多くの準備をしてくれました。各送迎はもとより、食べきれないほどの豪華なお食事、プログラム開始時における地元大学生による演舞（テコンドー）、公式晩餐会における有名歌手によるパフォーマンスなど、細部にわたり歓迎をしていただきました。

また、選手同士の交流だけでなく、監督・コーチが普段の練習の課題や練習方法などを共有し、まさに両国の活動がエクスチェンジできたのではないかと思います。

一方、日本選手団の事務方としては、事前の準備にも余念がありませんでした。選手のお薬に関する手続き（英文での説明書）、先方へのお土産の準備、入国事前審査のデジタル手続き（e アライバル）や保護者への各種説明など枚挙に暇（いとま）がありませんでした。そして、プログラム期間中は、高橋コーチを中心に、お薬の管理や精神的な支援など、選手同様に積極的に活動をして頂きました。また何と言っても、各所で同プログラムを盛り上げて下さったゴルゴ松本さんにも深く感謝いたします。更には、日本からわざわざ会場まで駆けつけて頂きました株式会社パレンテの吉田社長様、誠にありがとうございました。

次回は、再び日本での開催になります。時期をどうするか、どの競技を採用するかなど、今後、韓国側と調整が必要となりますが、2027年11月にはグローバル大会（カイロ）が控えており、このプログラムが同大会へのパスウェイとなるように協力しながら盛り上げて行きたいと考えております。

最後になりますが、同プログラムを実施するに関して、多くの企業様および個人様より過分なご支援を頂きました。この場をお借りいたしまして改めて感謝申し上げます。

一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会
会長 斎藤 利之（文責）

協賛企業・個人様（順不同・敬称略）

（株）パレンテ／（有）ちもと／（株）おぼうさんどっとこむ／ミズノ（株）／コトブキ技研工業（株）／（株）ラケットショップ フジ／愛知金物建材（株）／（株）菓匠禄兵衛／（株）和幸／（有）河邊農牧／（株）中山薬品商会／（株）鬼怒川タクシー／小金井勉

※心より深く感謝申し上げます。

その他：執筆内容は、執筆者の原文をそのまま掲載しております。

